

朝鮮半島的情勢変化に対する日本の対北東アジア政策の現状と展望

2019年1月29日

聖学院大学

宮本悟

2018年の朝鮮半島的情勢変化

- 金正恩による首脳会談のはじまり
 - 南北首脳会談が3回
 - 中朝首脳会談が3回
 - 米朝首脳会談が1回
 - キューバ・北朝鮮首脳会談が1回
- 金正恩による初めての非核化の意志
 - 金日成も金正日も非核化の意志を示していたが、金正恩は初めて

インパクトは大きい。でも、中身は・・・

- 金正恩が今まで首脳外交をしてこなかったということは、首脳外交をしなくても北朝鮮の外交は動いていたことを意味する。
- 中国、キューバとの首脳会談は、金日成・金正日時代にも開催されていた。いずれ実施される首脳会談である。
- 南北首脳会談は、外交ではないが、南北朝鮮の民族・国家統一という目的が国内で共有されているために南北朝鮮ではインパクトが大きい。もちろん、同一民族だから統一するというのは、自然な現象ではなく、イデオロギーである。
- 米朝首脳会談だけが、2018年に初めて開催された。このインパクトは大きい。しかし、共同声明でも具体的なことは何も決まらなかった。また、その後の実務者協議も進展していない。もちろん非核化も北朝鮮の安全保障も進んでいない。米朝首脳会談によって、構造的に朝鮮半島の情勢が変化したとはいえない。

「地球儀を俯瞰する外交」 日本外交の6つの重点分野『外交青書 2018年版』より

- 日本の国益を守り増進するため、以下の6つを重点分野として外交に取り組んでいく。
 - ①日米同盟の強化及び同盟国・友好国のネットワーク化の推進
 - ②近隣諸国との関係強化
 - ③経済外交の推進
 - ④地球規模課題への対応
 - ⑤中東の平和と安定への貢献
 - ⑥自由で開かれたインド太平洋戦略
-
- 安倍総理大臣の首脳会談だけでも2013年から2017年の間で600回を超えており、先月の時点で首相の訪問国は78に至った。

②近隣諸国との関係強化

- 日中関係は日中双方にとって、最も重要な二国間関係の一つであり、世界第2、第3の経済大国である日中両国は、北朝鮮問題を始めとする地域及び国際社会の諸課題に、肩を並べて共に取り組んでいく責務を共有している。
- 良好な日韓関係は、アジア太平洋地域の平和と安定にとって不可欠である。
- ロシアとは、4回の首脳会談及び5回の外相会談を始めとして、様々なレベルで緊密に対話を積み重ねている。
- 北朝鮮による核実験や度重なる弾道ミサイル発射は、これまでにない、重大かつ差し迫った脅威となっており、断じて容認できるものではない。

近隣諸国との関係強化では日中関係が重要 北朝鮮との関係は？

- 日中関係が重要なのは民主党の野田政権によるいわゆる「尖閣諸島国有化問題」で日中関係が悪化したことが原因である。
 - 日中関係の改善は第2次安倍内閣と習近平政権にとって重要な課題であった
 - 日中間の努力によって、日中平和友好条約締結40周年である2018年10月に安倍総理が中国を訪問し、日中関係は劇的に改善した。
 - ただ、2017年から日中関係は大きく改善され始めたとは評価されているため、朝鮮半島の情勢変化と日中関係の改善は、ほとんど関係がない。
- 2018年の朝鮮半島の情勢変化が、日本の対北東アジア政策に与えた影響は、それほど大きくはない。あるとすれば、北朝鮮の非核化への期待や拉致問題への解決への期待が少し高まったぐらいである。しかし、米朝関係はまだ不安定である上に、北朝鮮が対日政策を変えたわけではないので、日本の対北東アジア政策に大きな影響を与えることはない。

構造的な面がある日韓関係の悪化

- 日本と韓国のお交規模の違い
 - 日本が地球規模のお交を展開しているのに対して、韓国は北東アジアに留まっている。
- 2018年に南北対話だけが急に進んだために、お交のケアが疎かになった。
 - 日韓だけではなく、米韓、中韓も疎遠になっている。北東アジアでの韓国の孤立。
- 政治任用が多い韓国行政と政治任用を制限する日本行政
 - 韓国では、政治家である任命権者の裁量によって、忠誠心やイデオロギー、専門性などに基づいて任免する行政府のスタッフが多い。不安定なアマチュアのお交になりやすい。
 - 日本では、資格や成績を基準にするメリット・システムによって採用された官僚が行政府のスタッフに多い。安定したプロのお交になりやすい。